第２ 生乳及び牛肉の需要の長期見通しに即した生乳の地域別の需要の長期見通し、生乳の地域別の生産数量の目標、牛肉の生産数量の目標並びに乳牛及び肉用牛の地域別飼養頭数の目標

１　需要の長期見通し

（１）牛乳・乳製品の国内消費仕向量の長期見通しについては、関係者が需要の拡大に取り組むことにより、令和 12 年度において 1,152 万トン（生乳換算）と見込んでいる。

また、需要拡大の定着とその需要が生産者の所得をどれ程支えるかを見ながら、長期的な姿として、さらに国産生乳の意欲的な需要の拡大を目指すこととする。

（２）牛肉の国内消費仕向量の長期見通しについては、人口は減少する見通しであるものの、生産・流通の関係者が一体となって消費者ニーズを踏まえた国内生産を行うこと等により国内外の需要が拡大することを前提に、令和 12 年度において 87 万トンと見込んでいる。

また、長期的な姿として、人口減少は進むものの、国産牛肉の消費拡大の定着や輸出拡大を進めること等により、国産牛肉に対する国内外の需要の拡大を目指すこととする。

２　生乳の地域別の需要の長期見通し

生乳の地域別の需要の長期見通しについては、現状の生産量に対して構造的に需要が不足しているという足元の課題を確実に解決しつつ、飲用向け需要量は需要拡大の取組効果や地域毎の人口の予測を見込んで設定する。また、乳製品向け需要量についても、脱脂粉乳を中心に需要拡大の取組効果を見込んで設定する。

その上で、長期的な姿の需要として、牛乳、生クリーム及び脱脂粉乳・バターなどの乳価により生産者の所得をどれほど支えるかを踏まえつつ、さらに国産生乳の意欲的な需要の拡大を目指す。

（１） 飲用向け需要量（地域別全国計）　　令和 12 年度：378 万トン程度

（単位：万トン）

地域名	地域に属する都道府県名	現状（R5 年度）	見通し（R12 年度）
北海道	北海道	16	15 程度
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	26	24 程度
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県	156	155 程度
北陸	新潟県、富山県、石川県、福井県	16	15 程度
東海	岐阜県、愛知県、三重県	35	34 程度
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	64	61 程度
中国 四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	33	32 程度
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	44	42 程度
全国計		390	378 程度

※全体需要を推計した後、各地域の人口に応じて按分

※牛乳乳製品統計の乳製品向け処理量のうち、加工原料乳生産者補給金の対象品目外のものは飲用向けとして計上

（２）乳製品向け需要量（全国計）　　令和 12 年度：349 万トン程度

（参考）

（単位：万トン）

	現状（R5 年度）	見通し（R12 年度）
うち脱脂粉乳・バター向け	173	189 程度
うちチーズ向け	43	42 程度
うち生クリーム等向け	122	118 程度
乳製品向け需要量計	338	349 程度

（３）自家消費等需要量（全国計）　　令和 12 年度：５万トン程度

（４）需要量計　　令和 12 年度：732 万トン

長期的な姿（参考）：780 万トン

３　生乳の地域別の生産数量の目標

令和12年度の生乳の地域別の生産数量目標については、国内人口が減少傾向にある中で、現状の生産量に対して、構造的に需要が不足しているという足元の課題を確実に解決しつつ、需要の拡大に取り組むことを前提に、地域差は想定されるものの国全体としては現状（令和５年度 732 万トン）の生産量並みの目標とする。さらに、毎年、業界をあげた需要拡大の取組の成果等を踏まえ、更なる生産拡大の必要性を検証していく。

その上で、需要拡大の定着の状況とその需要が生産者の所得をどれほど支えるかを踏まえながら、長期的な姿の生産数量目標として、前回の基本方針における生産数量目標並みの生産量を目指すこととする。

（１）令和 12 年度目標

（単位：万トン）

地域名	地域に属する都道府県名	現状（R5 年度）	見通し（R7 年度）	目標（R12 年度）
北海道	北海道	417	423	428～445
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	51	49	46～49
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県	117	114	107～114
北陸	新潟県、富山県、石川県、福井県	7	7	6～7